

職員のリテラシー向上に向けて ～デジタルマガジン～

山形県 やまがた幸せデジタル推進課 デジタル技術専門推進員 斎藤 雄輔

自己紹介

- 齋藤 雄輔 (さいとう ゆうすけ)
 - 株式会社YCC情報システム システムエンジニア
 - やまがた幸せデジタル推進課 幸せデジタル届け人
- 長井市出身、在住
 - 黒獅子マニア



コロナ前は獅子舞の追っかけ
(川西町 小松皇太神社)

デジタル技術専門推進員

- 地元IT企業より派遣
- 県庁及び市町村のデジタル化について、技術支援を行う役割

デジマガまで至った経緯 . . . 悩み

- R3当初、県のデジタル化関連事業（約100個）に支援が必要か、各部局にヒアリング
→ 結果、特に支援が必要ないことがわかった（予算化の時点で専門家と共に準備済み）
- ある日、部長より「各部局の現場に入り込んで、個別課題を解決しながらリテラシー向上できないか」と依頼
→ どうしよう…。また「特にいりません」と言われたら、やれることがなくなる。

デジマガまで至った経緯

- 同時期、デジタル課内で「資料のPDF結合するツールあるのに、みんな知らないよねえ」という声が聞こえた
- 手順化までされているのに見てくれていない便利な仕組みがある
- 同様に、手順化しているのを見ずに、電話で問い合わせがくるものもある
- 舟形町さんでは、デジタルに特化した庁内報（しかもなかなかとがった）があるらしい

3分で読める情報発信が必要なのでは

デジタルマガジン毎週発行

- 県庁職員のITリテラシー向上がねらい
 - マンガという気軽なメディアで情報発信
 - 職員顔出しで、内線の先にいる人を感じられるように
 - 最初のネタはデジタル課職員から収集し、なんと50個集まった！
- 毎週水曜日発行
 - 定期的な発信により、発行されるのが楽しみになるように
- 情報の整理、足りない手順の追加などを整備した上で発行
- 問合せ窓口メールで、個別相談や職員からのネタ投稿も受けとる
 - 問い合わせあれば推進員が即飛んでいきます
 - 2か月で約30件の相談、ネタ投稿が来た
- ネタ投稿をくれたり、現場でデジタルを活用している人には認定ステッカー（自費制作）を進呈



🍒 🍌 〈週刊〉やまがた幸せデジタルマガジン 🍌 🍒
～第3号 Web会議でのハウリングはなぜ起きる？～

1 (Zoomでの打合せを始めようとしたら...) みなさん、打合せを始めます...

2 マイクとスピーカーをオフにしてください！
うわっ！またハウリングした

3 あ、あなたはZoom先生！

4 Zoomのことなら任せて！黒板です。1つの部屋で複数のマイクを使ったら、ハウリングします。片方は必ずマイクとスピーカーをオフにしましょう。

5 1つの部屋で会議をする場合は、各自ヘッドセットを使いましょう。

6 大きな会議室では、パソコンのUSBポートにつなぐスピーカーマイクを使いましょう。やまがた幸せデジタル推進課で貸出しを行っています。

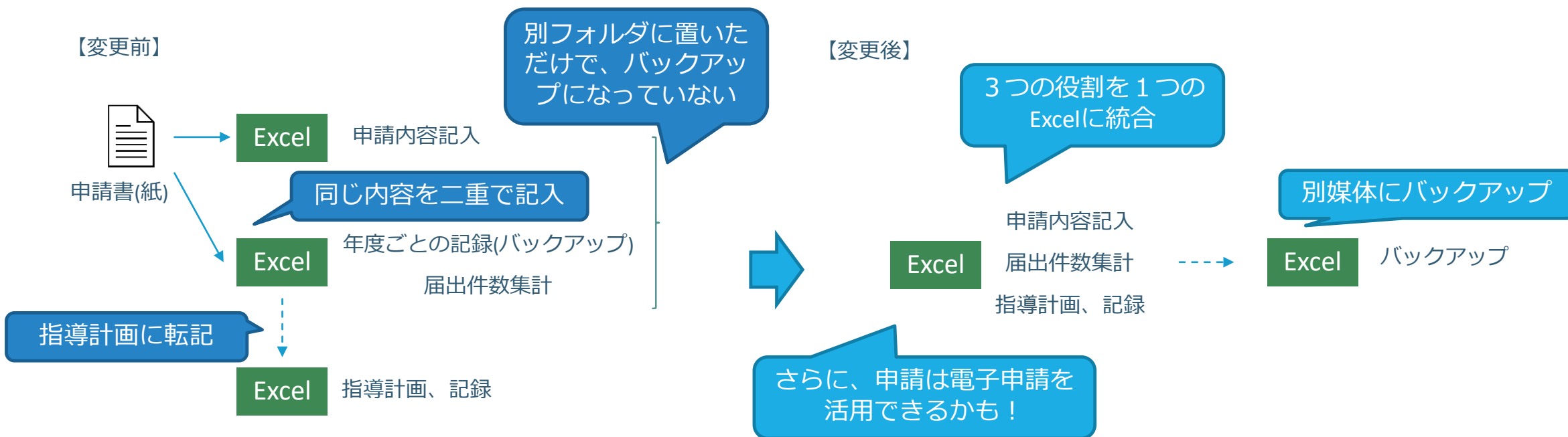
増幅 増幅
同じ空間にあるパソコンが互いの音を拾うことで、音が無限に増幅する

スピーカーマイクを接続したパソコン以外はマイク・スピーカーをオフ！音る方法は次ページをご覧ください。

出演：やまがた幸せデジタル推進課 黒坂デジタル企画主査、安達主査、岡田主査

現場改善にまでつながった事例

- 各事業所の登録申請、変更申請、指導記録をExcelにて管理する作業を引き継いだ
- 類似した資料が3種類あり、その役割がよくわからないまま手順に従って作業をしていた



- 担当変更時に「おかしいのでは？」と疑問に思ったことがデラックス

